

平成24年度における児童生徒の問題行動等に関する調査（宮城県分）について

◇文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」による〔平成25年12月10日公表〕

1 調査の趣旨

児童生徒の問題行動等について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における生徒指導上の取組のより一層の充実に資するとともに、児童生徒の問題行動の未然防止、早期発見・早期対応に繋げていくものとする。

2 調査対象期間

平成24年4月1日～平成25年3月31日

3 調査対象

仙台市を含む国公立小・中学校・高等学校及び中等教育学校在籍児童生徒
小学校438校(児童数123,975人), 中学校222校(生徒数65,460人), 高等学校102校(生徒数62,871人)

4 調査結果の概要

(1) 暴力行為

① 暴力行為発生件数

- 小学校における暴力行為の発生件数は123件で、前年度より2件増加した。
- 中学校における暴力行為の発生件数は704件で、前年度より31件増加した。
- 高等学校における暴力行為の発生件数は172件で、前年度より21件減少した。

② 暴力行為発生学校数

- 小学校57校（23校増加），中学校157校（34校増加），高等学校74校（1校増加）である。
※カッコ内は昨年度との比較。以下同じ。

③ 形態別発生状況

- 小学校では、対教師暴力が減少し、生徒間暴力，対人暴力，器物損壊が増加している。
- 中学校では，器物損壊が減少し，対教師暴力，生徒間暴力，対人暴力が増加している。
- 高等学校では，対教師暴力，生徒間暴力，対人暴力，器物損壊すべてが減少している。

校種 種別	小学校（件）			中学校（件）			高等学校（件）		
	発生件数		前年度 比較	発生件数		前年度 比較	発生件数		前年度 比較
	H24	H23		H24	H23		H24	H23	
対教師暴力	20	35	-15	79	68	+11	9	15	-6
生徒間暴力	70	60	+10	421	396	+25	124	126	-2
対人暴力	3	2	+1	25	14	+11	3	12	-9
器物損壊	30	24	+6	179	195	-16	36	40	-4
計	123	121	+2	704	673	+31	172	193	-21

④ 加害児童生徒数

- 小学校159人（71人増加），中学校796人（80人増加），高等学校227人（11人減少）である。

(2) いじめ

① いじめ認知件数

- 小学校におけるいじめの認知件数は8,377件で、前年度より7,443件増加した。
- 中学校におけるいじめの認知件数は1,984件で、前年度より1,335件増加した。
- 高等学校におけるいじめの認知件数は325件で、前年度より194件増加した。
- いじめの解消率は小学校99.1%（全国97.7%）、中学校99.7%（全国96.7%）、高等学校83.7%（全国96%）である。

② いじめの認知校数

- 小学校256校（137校増加）、中学校172校（66校増加）、高等学校77校（28校増加）である。

③ いじめの態様

- 小・中・高等学校ともに、いじめの態様で一番多いのは「冷やかしゃからかい等」で、小学校で約59%、中学校で約74%、高等学校で約43%となっており、二番目に多いのは「仲間はずれ、集団により無視をされる」で、小学校で約24%、中学校で約21%、高等学校で約16%となっている。

(小学校)

	種 別	認知件数(件)	割合(%)
1	冷やかしゃからかい等	4,936	58.9
2	仲間はずれ、集団による無視	2,020	24.1
3	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	2,018	24.1
4	嫌なことや恥ずかしいこと等	937	11.2
5	ひどくぶつかられたり、叩かれたり等	724	8.6

(複数回答・上位5件)

(中学校)

	種 別	認知件数(件)	割合(%)
1	冷やかしゃからかい等	1,466	73.9
2	仲間はずれ、集団による無視	423	21.3
3	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	364	18.3
4	金品をかくされたり、壊されたり等	166	8.4
5	ひどくぶつかられたり、叩かれたり等	95	4.8
5	嫌なことや恥ずかしいこと等	95	4.8

(複数回答・上位5件)

(高等学校)

	種 別	認知件数(件)	割合(%)
1	冷やかしゃからかい等	208	42.6
2	仲間はずれ、集団による無視	79	16.2
3	パソコンや携帯電話で、誹謗中傷等	55	11.3
4	軽くぶつかる、たたかれる	52	10.7
5	ひどくぶつかられたり、叩かれたり等	27	5.5

(複数回答・上位5件)

(3) 不登校

① 不登校児童生徒数

- 小学校における不登校児童数は455人（出現率0.37%）で、前年度より24人増加した。
- 中学校における不登校生徒数は2,056人（出現率3.14%）で、前年度より142人増加した。
- 高等学校における不登校生徒数は1,463人（出現率2.33%）で、前年度より122人増加した。
- 再登校率は小学校35.2%（全国33.8%），中学校31.5%（全国29.6%），高等学校28.2%（全国32.4%）である。

② 不登校在籍校数

- 小学校187校（2校減少），中学校209校（6校増加），高等学校99校（増減なし）

③ 不登校のきっかけ

- 小学校においては「不安など情緒的混乱」が最も多く、次いで「無気力」、中学校においては「無気力」が最も多く、次いで「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、高等学校では「無気力」が最も多く、次いで「不安など情緒的混乱」となっている。

(小学校)

	不登校のきっかけと考えられる状況	割合(%)
1	不安など情緒的混乱	19.2
2	無気力	14.5
3	親子関係をめぐる問題	13.1
4	家庭の生活環境の急激な変化	10.9
5	病気による欠席	7.7
	いじめ	1.1

(複数回答・上位5件)

(中学校)

	不登校のきっかけと考えられる状況	割合(%)
1	無気力	20.2
2	いじめを除く友人関係をめぐる問題	14.4
3	不安など情緒的混乱	12.7
4	学業の不振	8.3
5	親子関係をめぐる問題	7.0
	いじめ	1.6

(複数回答・上位5件)

(高等学校)

	不登校のきっかけと考えられる状況	割合(%)
1	無気力	23.0
2	不安など情緒的混乱	16.0
3	いじめを除く友人関係をめぐる問題	9.8
4	あそび・非行	7.4
5	学業不振	6.0
	いじめ	0.5

(複数回答・上位5件)

※不登校のきっかけと考えられる状況の区分については、平成22年度より新しい区分になった。

(4) 高等学校中途退学

① 中途退学者数

- 高等学校の中途退学者数は1,212人で、55人減少した。
- 中途退学率は1.9%で、0.1ポイント減少した。

② 中途退学の事由

- 「学校生活・学業不適応」を事由とした中途退学者の割合は42.7%で前年度より2.4ポイント減少した。
- 「進路変更」を事由とした中途退学者の割合は、28.4%で前年度より2.4ポイント増加した。

5 県教委としての対応

今回の調査結果については、震災後2年目の小・中・高等学校における問題行動等の状況を示すものである。全体的には、特に小・中学校においては、暴力行為・いじめ・不登校ともに増加しており、震災の影響がこういった問題行動等の数字となって現れているものと考えられる。震災から3年目を迎え、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応への取組をこれまで以上に留意して取り組んでいるところであるが、今後さらに、児童生徒が互いに尊重し合い、志をもって学校生活を送ることができるよう人間関係づくりを基盤とした分かる授業づくりなど、教育活動の質的改善を図る。併せて、生徒指導体制を一層整備し、県警等との連携を強化するなどして以下の取組を積極的に推進していく。

(1) 暴力行為

- ① 生徒指導支援事業における教員加配や警察・教員OB等の支援員の拡充
- ② 各学校におけるスクールサポーター制度の活用促進
- ③ 学校警察連絡協議会連絡会における学校と警察の情報交換と連携の強化
- ④ 中学校・高等学校生徒指導連絡協議会における生徒指導の諸問題の協議と学校間連携の強化
- ⑤ 生徒指導主事研修会における生徒指導の諸問題の協議の強化

(2) いじめ

- ① 「いじめ防止対策推進法」の施行を受けた各小・中・高等学校での「学校いじめ防止基本方針」の策定と対応策の具体化
- ② 県教委作成のいじめの早期発見、早期対応のための教師用リーフレットの活用推進
- ③ 指導主事学校訪問における「いじめ問題等に係る話合い」や校内研修の充実による教師の意識の高揚と、未然防止、早期発見、早期対応の徹底
- ④ 市町村教育委員会の要望に応じた県の職員（指導主事、在学青少年育成員）の派遣（小・中）
- ⑤ 児童生徒対象の「いじめ問題を考えるフォーラム」及び教員対象のいじめ問題に関する講演会の継続開催（小・中）
- ⑥ 道徳心や規範意識の向上を目的としたみやぎ高校生マナーアップ運動の展開（高）

(3) 不登校

- ① 志教育を通じた通学への意欲と目的意識の向上
- ② 体験活動やみやぎアドベンチャープログラム（MAP）等を通じた人間関係づくりの促進
- ③ 不登校児童生徒の学校復帰を支援する登校支援ネットワーク事業の拡充
- ④ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の配置拡充による相談体制の充実
- ⑤ 不登校対策リーフレットや不登校対策チェックシート、不登校児童生徒の記録表等の活用による各学校の組織的・計画的な不登校対策の促進（小・中）
- ⑥ 不登校担当教員を対象にした「不登校対策研修会」の開催（小・中）
- ⑦ 各市町村教育委員会や関係機関との連携の強化（小・中）

(4) 高等学校中途退学者

- ① 志教育を通じた学ぶ意欲と社会貢献意識の向上
- ② 分かりやすい授業づくりを通じた学ぶ意欲の向上
- ③ 体験活動を通じた良好な人間関係の構築
- ④ 教育相談体制の充実と組織的対応の強化
- ⑤ 中学校と高等学校との連携の強化